



宮城歩に 子規

「はて知らずの記」水彩紀行

古山 拓

みちのくへ涼みに行くや下駄はいて——子規

明治26年夏、26歳。

あの“見たがり”の子規は

東北で何を見たのだろう？——森まゆみ

文学界の巨人・正岡子規が記した「はて知らずの記」
彼の若き目線を、絵と文で宮城路に辿った水彩旅エッセイ